

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	仙台大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	センダイダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	キャリアプランニングⅡ
	学部・研究科等名	体育学部
	担当教職員名・役職	教育企画部長 大内悦夫(教授)、教務委員長 田中智仁(准教授)、齋藤博(教授)、藪耕太郎(准教授)、三谷高史(講師)、教育企画室長 川村昭宏、教育企画室 鈴木将士
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	199
	受入企業等数	119
	受入企業等名	仙台YMCA、(株)ヴァスクオーレ仙台 他117社
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学におけるインターンシップは、アルバイトやパートタイム従業員としての業務ではなく、一定の裁量権がある正規社員としての業務を体験することを条件としている。受入企業には書面で受入検討のお願いをする際にインターンの趣旨を説明し、実習先調査票や受入内諾書などで体験内容の事前確認につとめている。場合によっては、学生と受入企業と相談の上、業務内容を変更していただく事もある。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している、9.その他
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	キャリアプランニングⅡという必修科目内で、講義コース、インターンシップ(自己開拓)、インターンシップ(大学紹介)の3つに分けて実施している。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2年次必修のキャリアプランニングⅡという講義で、インターンシップコース(自己開拓・大学紹介)を設置しており、毎年200名前後が選択している。自己開拓型では学生が自ら実習先を探し、受入交渉する。大学紹介型ではガイダンスで複数の受入先を紹介し、希望する学生の特性(取得希望資格など)などを勘案して、スタッフ側で実習先を決定する。他の講義に影響が無いよう、いずれも夏休み期間中の実施を義務付けている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	企業と連絡を密に取り、インターンシップ中に何かあれば早急に協議できるような体制を構築している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	自己開拓型では、学生に受入先の企業・団体をよく知ること、就業体験を通して何を学ぶことができるのかを意識することを課している。学生が作成する受入先調査票の内容を確認することで学習内容の把握に努めている。大学紹介型では、受入先の担当者に来ていただき、事前説明会を実施していただくことで自己開拓型と同様の学習内容を課している。また、直前には注意事項やインターンシップの意義を確認する機会も設けている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	自己開拓型・大学紹介型ともに、学生には日報(実習日誌)の作成を課しており、受入先の担当者にもチェック、コメント、総評をいただくことになっている。事後学習では事前学習と体験内容をふまえ、「インターンシップを通して何を学ぶことが出来たのか」「今度の学生生活と就業に向けて」をテーマにレポート作成を学生に課している。このレポートと日報を成績判断材料としている。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	200名前後の学生がインターンシップを選択するため、担当教職員4名で網羅的なモニタリング体制の構築することは困難である。よって、実習中に問題がおきた場合に迅速に対応することを重視している。担当教職員の連絡先の公表し、学生には遅刻欠勤を含め何か起きたら連絡をするように指導し、受入先にも何かあればすぐ連絡をしてもらうようお願いしている。大学紹介型の受入先については訪問を実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの教育効果は、事前学習の成果を実習先調査票(大学紹介型は説明会後の小レポート)、インターンシップ中の学習成果を日報、事後学習の成果をレポート、という3つの時点・素材で測定している。それぞれ(1)各時点での学習内容と成果が自覚されているか、(2)省察を経て今後の展望を持つことが出来ているか、の2点で評価している。本講義は認定科目のため、最終的には認定／不可という形での評価になる。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日以上(内インターンシップ期間3日・24時間以上)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップは3日以上かつ合計24時間以上でなくてはならないという条件を設定している。受入先によっては4~5日の期間実施する場合もある。3日間以上のインターンシップに前指導・事後指導を加えると、実施期間は5日間以上となる。さらに大学紹介型の場合は、そこに受入先のインターン担当者による事前説明会の1日が加わる。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間中、学生は毎日日報で業務内容と気付きや学びを記録し、受け入れ先の担当者にコメントをいただくことになっている。インターン終了後は総評をいただいている。大学紹介型では、受入先担当者による事前説明会(注意事項やマナー等のレクチャー)を実施いただいております。評価や事前指導において協働を実施している。
	7.上記①~⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.sendaidaigaku.jp/dnt2/_sendaidaigaku/access/nic_img/13/files/syl_tai_2017.pdf
問い合わせ先	大学等名	仙台大学
	担当部署名	教育企画室
	担当者役職名	
	担当者氏名	鈴木 将士
	電話番号	0224-55-1086
	メールアドレス	kyoumu@sendai-u.ac.jp